

発行者の 番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名
61 啓林館	生活 143 144 145	わくわく せいかつ上 せいかつ たんけんブック いきいき せいかつ下 代表著作者 寺尾慎一

## I. 編集の基本方針

子どもたちを取り巻く環境が目まぐるしく変化し続ける現在、体験が不足がちであり、東日本大震災などの自然災害や事件・事故等、安全面の不安も増大する中、子どもたちをいかにたくましく、自立して生き抜くことができるように育てられるか、そして、笑顔で育てられるかを大切に考えています。

生活科は教科学習の中心に位置するため、学びの素地を育て、子どもの学びや成長を支え、ともに考え合える教科書になるように願いを込めました。そして、21世紀をよりよく、たくましく生きるために、人としてもつべき英知をみがくことのできる教科書として、次のような編集方針を立てました。

1. 児童にとって、関心と意欲をもって活動に取り組み、その成果を振り返りながら身の回りの人々と伝え合い、自己理解を深められる教科書
2. 教師にとって、活動の流れや支援の方策がわかりやすく、的確な児童理解によって学習活動を導くことができる教科書
3. 保護者や身近な大人にとって、児童の学びや成長のようすが分かり、自立への基礎を養うための支援や助言の仕方が分かる教科書

## II. 編集上の留意点と教科書の特色

### 1. 改訂のポイント

「編集の基本方針」を基に、以下のポイントを重視して編集しました。

#### 【基本方針を実現するために】

#### 【教科書での対応】



基本  
方針  
1

- ・児童をわくわくさせる。
- ・活動後、次に向けての意欲を抱かせる。
- ・活動を重視し、伝え合いを通して一連の意味ある出来事として理解し、気付きや自己理解を一層深める。

- ・気付きが深められるように、**段階(4段階)を追った紙面展開**をする。
- ・次につながる児童の思いや願いの例も示す。
- ・多様な伝え合い活動例や、そこから得られる気付きの深まりを示す。



基本  
方針  
2

- ・体験させたい活動を精選する。
- ・低学年児童の特質を的確に理解し、児童を導く方策を、多様性を担保しつつ明確にしていく。
- ・指導や支援のあり方を提示し、授業イメージをもちやすくする。
- ・保幼小、上位学年の縦の連携、同学年他教科の横の連携を重視する。

- ・低学年児童にふさわしい情報量で、活動内容を**見て取りやすく**する。
- ・小単元タイトルなどの文字情報の位置付けを統一し、「**めあて**」が**明確になるように**する。
- ・単元本編と資料の位置付けを明確にし、メリハリのある紙面づくりをする。



基本  
方針  
3

- ・どのようにすれば「児童が自立できるようになるのか」に対して、保護者、あるいは身近な大人が、生活科のねらいや内容を正しく理解し、児童が安心して過ごせるようになるための助言を指し示す。

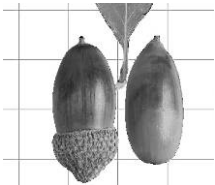
- ・保護者へのメッセージを掲載する。
- ・単元内においても、児童が家の人へ報告する場面など、**かかわり方**を示す。
- ・家族単元(ひろがれ えがお)を改訂し、家庭内で児童の自尊感情を養い、自信をもって自立できるような展開にする。
- ・**自身の安全を自身で守ることができるように、考えることができる教科書にする。**

## 2. 教科書の構成

野外活動に役立つ資料を別冊「せいかつ たんけんブック」として設定し、上巻、下巻、別冊の3冊構成にしました。

全体として、2年間の季節の移り変わりをベースに、上巻は「学校と生活」、下巻は「地域と生活」をテーマに、公園や町、野原などの季節変化や、そこで生活する人々や動植物の変化に気付かせました(定点観測：上 p. 50, 80, 94 など)。また、時間の経過により、活動や気付きが広がり深まっていくようすを示しました(下 p. 28, 66 など)。

資料については、上下巻の巻末や別冊たんけんブックと、以前にも増して豊富に掲載しました。なお、別冊は1年入学時に上巻と一緒に子どもたちに届きます。



実物大資料の背景には1cmの方眼付き

### ①別冊で子どもの好奇心や探究心をサポート

上下巻の巻末資料のうち、野外に関するものを別冊にも掲載しました。その際、別冊では実物大資料や付随する資料を補強し、より野外で役に立つ扱いにしています。

### ②別冊は野外で使えるミニサイズ

探検バッグに入れて野外に持ち出すことも勘案し、コンパクトな紙面サイズ(A5判)にしました。穴あけ加工を施し、ひもなどを通せる工夫もしています。

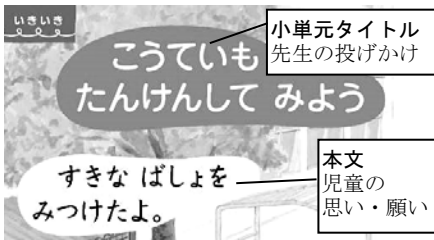
## 3. 気付きの深まり、広がり重視



低学年児童の教科書であることを念頭に、情報量・文字量の精選を行いつつ、活動の「様子」、「仕方」、「成果・効果」が見て取れる紙面を心がけました。

単元は、導入のわくわく、主な活動のいきいき、交流活動となるつたえあおう、さらに広げて深めるちゃれんじの4段階の紙面構成でストーリーを明確にしました。これにより、活動を単発にせず、学習指導要領で求められている「関心をもつ、気付く、わかる、考える、深める」を重視し、単元を通して深まる様子が見て取れるようにしました。そして、先生方にも授業の構成がわかることや、例えば「わくわく」では「関心・意欲・態度」を重視するなど、評価計画にも役立つ効果を期待しています。

また、単元内の小見出し(小単元名)は先生の投げかけ、本文はそれを受けた子どもの思いや願いを示し、活動の流れ、めあてを明確にしました。ほか、紙面右下のスペースを利用した次の活動につなげる子ども同士のやり取り(言語活動)(上 p. 87, 89 など)や、教室風景の黒板の利用(上 p. 49, 78-79 など)など、単元全体を通して活動や流れを見て取りやすく、気付きを高める工夫を行っています。



## 4. スタートカリキュラム重視

上巻最初の単元「いちねんせいになったよ」は、入学したての子どもたちのために、幼児教育を意識しつつ、イラストのみで展開しました。

スタートカリキュラムにあたる本単元は、幼児教育とのつながりを意識し、絵本のように展開しました。文字情報は極力排除し、絵を中心に登下校の安全、学校の一日の様子、友達作りなどを通して学校が安心して生活できる場であること、明日も学校に行きたいと思わせる展開にしています。(上 p. 2-11 全体)

また、特別支援にも配慮し、写真では情報量が多すぎるため、イラストで必要な情報を絞り、注意が散漫にならないようにしました。ほか、登校時から下校まで一連の流れで追っていける扱いにしています。(上 p. 2-11, 一連の流れで追える紙面 p. 4-9)

## 5. 防災・安全，衛生面への配慮

じしんなど もしものときは



つるみや できが  
くずれることがあるので  
いすのひた  
きめて おいた ばしへ  
いもいて にげる。



自然災害や，衛生面など，今日において特に重要視される「子どもの安全」については特段の配慮を行いました。

### ①様々な災害から，子ども自身が身を守る術を身に付けられるよう配慮

単元本編においては，防災教育に特化させるのではなく，生活科の学習の中で得られる気付きという実際的な扱いを重視しながら，子ども自身が気付き，身を守る術を身に付けられるように配慮しています。(上 p. 24-25, 下 p. 73 など)

そのほか，最低限必要な知識(津波など)については，巻末資料や別冊を利用するなど，扱いにメリハリをもたせています。(上 p. 132-133, 別冊 p. 44-47 など)

### ②動植物とのかかわり，基本的な生活習慣では衛生面を特に重視

栽培などの土に触るときや，生き物については触る前後において手洗いを奨励するなど，衛生面には特段の配慮をしています。(上 p. 31, 63 など)

また，近年，環境省によるとザリガニカビ病など衛生面の不安や，外来種の問題で取扱いに配慮が必要とされているアメリカザリガニの掲載をせず，より安全なバッタを主たる生き物素材に選定しました。(下 p. 50-61)

ほか，基本的な生活習慣においても，手洗い・うがい等を奨励し，健康に生活ができるよう配慮しています。(上 p. 4, 98 など)



## 6. 保幼，上位学年，他教科との連携



先述のスタートカリキュラムのほか，幼児教育や3年生以上の教科学習との連携，同学年他教科との連携を重視しました。

### ①幼稚園児・保育園児との合同活動

幼稚園や保育所と連携した活動を示し，互いを意識できるよう配慮しました。また，就学前の体験入学の様子も紹介し，当時からの自分の成長に気付くことができるように配慮しています。(上 p. 44-45, 84-85, 91, 110-111, 下 p. 45, など)

### ②上位学年へのつながり

季節変化の定点観測や，3年生の理科で扱う風やゴムにつながる基礎体験を十分に行えるよう，おもちゃ作りを充実しました。ほか，観察の仕方の基礎などの資料も設定しています。(定点観測：上 p. (20, 54, 82, 96), (44, 84), (50, 80, 94), 下 p. (26, 32, 64, 72)), (おもちゃ：上 p. 88, 100, 下 p. 36-45, 120-123), (その他理科的資料：別冊 p. 4-5, 18-21 など)

### ③同学年他教科(横)のつながり

生活科は，他の教科学習の学びの素地を育てる役割を担っており，教科書においても各教科との合科・関連的指導を促す活動の様子を示しています。(国語：上 p. 89, 下 p. 15, 算数：上 p. 34, 37, 体育：上 p. 10-11, 図工：上 p. 88-89, 下 p. 42-43, 音楽：上 p. 10 など)

## 7. 家庭との連携

保護者も一緒に生活科を意識して，子どもの成長を支えてほしいと考えています。

上下巻の裏表紙に，保護者へのメッセージを入れ，家庭においても生活科を意識して，子どもの成長を見守っていただきたい旨を示しました。このほか，紙面内においても，学校での出来事を家庭で伝える場面を紹介するなど，子どもたちと同時に保護者にも意識してご覧いただきたい紙面にしました。(上 p. 11, 67, 101 など)

また，家庭の中で自分の役割を見出す単元においては，お手伝い偏重の単元に陥らないように，「家族に喜んでもらいたい」という思いをもって，子ども自身が積極的かつ自発的に家庭の中で自分の役割を果たせるように単元の展開を工夫しました。これにより，自尊感情を養うとともに，家庭内での自分の存在意義，認められていることに気付かせ，より継続的に役割を果たしていけるようになることをねらっています。

(上 p. 70-79)

## 8. 道徳への 対応

どこが いけないのかな



生活科と道徳は親和性が高く、人間形成の素地となるため、教科書においても特段の配慮をしています。

友達や幼稚園児などとのトラブルへの対応や、他の人に迷惑をかけないことなどを示しました(上 p. 45, 85, 117, 下 p. 102-103 など)。また、言葉遣いや態度などについて、人と適切にかかわれることや、マナーに配慮しました。(上 p. 117-121 など)

ほか、人だけではなく、対象が生き物においても、思いやりをもって適切にかかわることができるように配慮しました。その際、教え込むのではなく、言葉を発することができない生き物の立場に立って考えることができるように、紙面の扱いを工夫しています。(下 p. 114 など)

## 9. 人権・福祉、国際理解への対応

生活科では様々な人とのかかわりを重視するため、子どもたちに適切なかかわり方、意識をもたせられるように配慮しています。

まず、車椅子の友達や町の人などを配して意識を高めるほか、福祉関連設備等も紹介し、優しい町に気付けるように配慮しました。(上 p. 10, 下 p. 34, 82, 102, 104-105 など)

また、国際化社会が進む中、外国の人たちと日常的にかかわることも可能なように、外国人の友達や遊びを紹介しました。(友達は随所、ほか上 p. 48, 103 など)

## 10. 環境教育への対応

子どもたちがかかわりをもつのは人だけではなく、自然環境も大切な対象です。社会で生活する一個人として、適切な対応ができるように教科書でも配慮しています。

一つには、工作素材や落ち葉のリユースを呼びかけています。(下 p. 124)

また、動植物を採り過ぎないように注意を促しています。(下 p. 55)

そして、環境保全・外来生物法などを意識し、飼育した動物をむやみに野外に放さないように子どもたちに考えさせています。(下 p. 61, 別冊 p. 3 など)

## 11. 情報化への対応

ICT 教育も意識し、協働学習において情報機器を活用する様子を示しました。

低学年児童に無理がない範囲で情報の収集や発信、交流などを紹介しました。その際、整備状況の差に配慮し、また、生活科では交流の内容そのものが重要であること、交流活動がバーチャルなものに偏らない配慮が望ましいことから、機器の多様性、紹介については資料的な扱いとしています。(上 p. 120, 123, 下 p. 8, 28, 30, 57, 84, 113 など)

## 12. 特別支援教育など、子どもへの配慮

特別支援教育や色覚特性など、すべての子どもたちが支障なく学習できる環境づくりを目指す「インクルーシブ教育」に対応した教科書を追求し続けています。

特別支援教育については、専門家の監修の下、先述の上巻最初の単元のほか、先生の立ち位置や、子どもに寄り添う、隣にしゃがむなどの動作にも配慮しました。

(上 p. 20, 39, 48-49 など) このほか、子ども自身の社会性(ソーシャルスキル)を養うための資料も充実しています。(上 p. 117-121 など)

色覚特性への配慮、弱視児童への対応として、色覚の個人差を問わず紙面の内容が判別できるように、カラーユニバーサルデザイン機構の監修の下、色使いに配慮して編集しました。(紙面左肩の4段階のマーク、単元カラー、別冊のカテゴリー同士の配色など)

## 13. 軽量化と環境への配慮

子どもたちに考えさせるだけでなく、教科書そのものにも環境への配慮を行っています。

教科書の制作にあたっては、用紙・印刷・製本にも工夫を行い、鮮明度と軽さを両立させた再生紙に植物油インキ(アレルギーにも配慮)で印刷をし、開きやすくA B判という大判の教科書でも強度のある「あじろ綴じ」を採用しました。

### Ⅲ. 教育基本法との関連

教育基本法第2条		教科書上、特に意を用いた点や特色	箇所
第1号	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健全な身体を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規則正しい生活を示すことで、健康な心身を養えるように配慮しています。</li> <li>・相手や状況に応じて適切な接し方をするなど、豊かな情操と道徳心を養えるように配慮しています。</li> <li>・自然や生き物と接したり、おもちゃを作ったりする中で、その不思議さや、違いや性質に気付くことができるように配慮しています。</li> </ul>	上 p. 4, 6-7, 9, 59, 75, 98 下 p. 49, 77 上 p. 4-5, 6-7, 45, 63, 91, 103, 110, 117-121 下 p. 4-5, 8-9, 28-29, 70-71, 103-107 上 p. 42-49, 50-51, 60-67, 80-91, 94-97, 124-128 別冊 p. 4-39, 下 p. 26, 32, 36-45, 50-61, 64, 72, 108-111, 114-117, 120-123
第2号	個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の中での自分の役割を見出し、自分の役割を積極的に果たせるように配慮しています。</li> <li>・保護者に出来事を伝え合うことや、自分の成長に気付く活動では、互いにすごいところを教え合うなど、個人の価値を高めるように配慮しています。</li> <li>・地域の人々が、私たちの生活を支えてくれていることに気付き、感謝の念をもてるように配慮しています。</li> </ul>	上 p. 70-79 上 p. 108-109 下 p. 86-100 上 p. 26-27 下 p. 20-35, 62-73, 78-85
第3号	正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で遊んでいる子に声をかけたり、他人に迷惑をかけるようにしたりするなど配慮しました。</li> <li>・出来事を振り返ったり、他者からの感謝を受けたりして、自身の成長に気付く紙面においては、ほめたり、共感したりなど、お互いを認め合うように配慮しています。</li> <li>・秋祭りなど集団活動においては、皆で協力して行うように配慮しています。</li> <li>・男女の役割を固定化せず、各々が思いをもって活動に取り組めるように配慮しています。</li> <li>・地域社会の公共物・公共施設に目を向け、正しく安全に、大切に利用できるように配慮しています。</li> </ul>	上 p. 8-9, 11, 15, 45, 85, 117, 121, 129, 別冊 p. 3 下 p. 102-105, 125 上 p. 26-27, 39, 48-49, 67, 76-79, 86-87, 108-109 下 p. 88-95, 98-100 上 p. 90-91, 120-121 下 p. 24-29, 44-45, 60-61, 70-71, 82-85 上 p. 70-79 上 p. 44-45, 84-85, 別冊 p. 42-43 下 p. 34-35, 82-83, 102-105
第4号	生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上下巻それぞれにおいて栽培活動や飼育活動を行っています。栽培活動については、一粒の種からたくさんの種ができるまでかかわり続けることで命のつながりを実感できるよう配慮しています。</li> <li>・飼育活動では命の温かさや、生育環境に目を向けるなど、命と適切にかかわるように配慮しています。</li> <li>・野原遊びや生き物探しにおいては、環境の保全や、外来生物法などを意識しています。</li> </ul>	上 p. 28-41 別冊 p. 40-41 下 p. 6-19, 118-119 上 p. 60-69, 別冊 p. 22-33, 下 p. 50-61, 114-117 上 p. 45, 85, 別冊 p. 3, 下 p. 54-55, 61, 124
第5号	伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の伝承遊びや行事、栽培では地域の特産物に目を向けるなど、地域やわが国の伝統を愛することができるように配慮しています。</li> <li>・他国の人とのかわりや遊びを示したり、外国人のクラスメイトを設定したりすることで、仲良くかわりあうことができるように配慮しています。</li> </ul>	上 p. 89, 99, 102-103, 130-131 下 p. 8, 33, 46-49, 74-77, 93, 112 上 p. 5, 103 ほか、クラスメイトは随所

### Ⅳ. 教材の配列と学習指導要領との関連

単元名(◆) (その他活動, 資料)	配当 時数	学習指導要領の 内容
◆いちねんせいになったよ	4	(1) (2) (3)
◆がっこうとともだち	11	(1) (3) (4) (5) (7) (8)
◆ひとつぶのたねから(1学期)	4	(6) (7)
◆さあみんなでかけよう	8	(3) (4) (5) (6) (8)
◆だいすきなつ (なつやすみをたのしもう)	3 1	(1) (5) (6) (2) (3) (5) (6) (7) (8)
◆ひとつぶのたねから(2学期)	6	(7) (8) (9)
◆生きものとなかよし	6	(1) (7) (8)
◆ひろがれえがお	8	(2) (3) (8) (9)
◆たのしもうあき	14	(1) (3) (4) (5) (6) (8)
◆たのしき見つけたよふゆ (ふゆ休みにたのしもう)	2 1	(1) (5) (2) (3) (5) (6) (8)
(3学期)	10	(1) (3) (5) (6) (8)
◆もうすぐ2年生	12	(1) (2) (3) (5) (8) (9)
標準時数 102 配当時数(予備時数)		90(12)

単元名(◆) (その他活動, 資料)	配当 時数	学習指導要領の 内容
わくわくするね 2年生	3	(1) (8) (9)
◆おいしい野さいをそだてよう (1学期)	6	(3) (5) (7)
◆レッツゴー町たんけん	13	(3) (4) (5) (8)
◆つころうあそぼうくふうしよう	11	(6) (8)
(わくわく夏休み)	1	(2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)
◆みんな生きている	9	(3) (5) (7) (8)
◆おいしい野さいをそだてよう (2学期)	8	(3) (5) (7) (8) (9)
◆もっと行きたいな町たんけん (いきいき冬休み)	18 1	(3) (4) (5) (8) (2) (3) (4) (5) (6) (8) (9)
◆つたえ合おう町のすてき	7	(1) (3) (4) (5) (8)
◆これまでのわたし これからのわたし	14	(1) (2) (3) (8) (9)
標準時数 105 配当時数(予備時数)		91(14)

※地域や学校および子どもの実態に応じた弾力的な活動計画が立てられるように、標準時数よりも余裕をもたせて時間を配当しています。